

知識として知っておきたいPDD

a) 基本理解

< PDD (広汎性発達障害) = Pervasive Developmental Disorder >

・ 3つ組みの障害 ; 「社会性 (他者との交流がスムーズにいかない)」、「コミュニケーション (ことばをコミュニケーションに用いない)」、「想像力 (想像力の発達が困難、こだわり)」の3つに渡って障害を有するために「広汎性」という。DSM-Ⅱでは、「自閉性障害」、「レット障害」、「小児期崩壊性障害」、「アスペルガー障害」、「特定不能の広汎性発達障害」の5つを下位障害として規定している。また、PDDの中でも知的遅れがない (IQ70以上) 場合、「高機能PDD」といい、高機能自閉症、アスペルガー障害、知的遅れを伴わない非定型自閉症が該当する。高機能自閉症とアスペルガー障害の違いは、幼児期に明らかな言葉の遅れがあったもの (始語が2歳以降、2語文が3歳以降) が高機能自閉症、なかったものがアスペルガー障害である。しかし、両者に生じる問題に本質的な相違は少ないと考えられるため、同一のものとして扱われることが多い。

・ ウィング (1996) が提唱した「自閉症スペクトラム」は、PDDとほぼ同義の概念である。これは、障害をカテゴリーとしてとらえるのではなく、「連続体」としてとらえようとするものである。自閉症的な子どもには臨床として同じ対応が考えられるため、自閉障害の濃淡で対応を考えようとするものである。典型的な自閉症、アスペルガー障害、重度の知的障害を伴うケース、知的障害がないケースなどを連続した一続きのものとする考え方。

PDD (広汎性発達障害)

・ 三つ組 (社会性, コミュニケーション, 想像力) の障害を有する
・ 「自閉症スペクトラム」と同義
・ 以下の5つのPDDがある

・ 自閉性障害 (* この中で知的な遅れを伴わないものを, 「高機能自閉症」という)
・ レット障害
・ 小児期崩壊性障害
・ アスペルガー障害
・ 特定不能PDD (* 非定型自閉症と同義)

上記の中で, 高機能自閉症, アスペルガー障害, 知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「高機能PDD」という

b) 基本対応

「カード、手順表等による視覚的な教材を工夫する」、「予告を頻繁に行う」、「学習手順、学習の場等を決めて指導する (構造化)」、「明確・具体的な言葉をかける (ジョークが通じにくい)」、「否定表現 (~ ダメ) ではなく肯定表現 (~ しよう) で伝える」、「感覚過敏性のあることに留意する」等。